

【演習 04】 復職・就労移行支援

グループワーク：事例検討

科目	テキスト	時間
復職・就労移行支援	PowerPoint スライド/mp4 動画	90 分

研修のねらい

医療機関と就労支援機関の立場による違いを知るとともに、基本的な就労支援のプロセスについて理解する。

研修内容

脳卒中の復職ケースの事例を通して、「医療機関で必要となるアプローチ・難しいアプローチ」「医療機関と就労支援機関の連携をする上での課題、効果的な情報提供」「就労支援機関で必要となるアプローチ」について理解する。

番号	スライド	注意事項				
6		演習の進行役が発表内容に関して、ポイントとなる内容について簡単にコメントしてください。				
7	<p>支援のポイント①「入院中」(例)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>【本人へのアプローチ】</th> <th>【職場側へのアプローチ】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ol style="list-style-type: none"> 今後の見通しの説明 <ul style="list-style-type: none"> 復職の可否、不安が強い場合、本人・家族へ相談関係・職場復帰・経費など、今後の見通しを説明する 口頭理解促進のためのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> 認知訓練等：仕事と結びつけ動機づけして実施 業務を想定した課題：院内で行えるものを検討 ADL・認知の向上 <ul style="list-style-type: none"> 職場内で口頭管理できるための準備 ＝どのような補助行動や環境の支援があれば自立できるか <p><例>移動・ルート表 服薬管理・カレンダー等→1Wセット スタッフへの指導・スケジュール表→メモリーボードの活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 外出訓練 <ul style="list-style-type: none"> 復職先を想定した外出訓練 </td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 経済面の確認 <ul style="list-style-type: none"> 復職手当及び福祉の給付制度の確認・訓練 勤務障害者保険給付手帳の準備 復職後すぐに取付できるよう準備・調整 障害手帳の申請状況 職場状況の確認(業務内容・勤務地・受け入れ) <ul style="list-style-type: none"> 本人・家族：復職前の状況と復職後の職場とのやり取りの確認 職場：ご本人・ご家族の希望に基づき、実現しづらい、職場の受け入れ状況を確認する 関係先機関との情報提供 <ul style="list-style-type: none"> 地域障害者就業センター(DCC等)、障害者就業・生活支援センター、就労移行支援事業所、市区町村の障害支援センター、福祉支援事業所などの紹介 職場への連携アプローチ <ul style="list-style-type: none"> 復職時の支援体制や復職後のフォローが必要な事などを説明する。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>医療機関では難しいこととして、「仕事に関する職業での訓練(技能・内容)」「職場に向かいの支援」「復職後のフォロー」などが考えられる。</p>	【本人へのアプローチ】	【職場側へのアプローチ】	<ol style="list-style-type: none"> 今後の見通しの説明 <ul style="list-style-type: none"> 復職の可否、不安が強い場合、本人・家族へ相談関係・職場復帰・経費など、今後の見通しを説明する 口頭理解促進のためのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> 認知訓練等：仕事と結びつけ動機づけして実施 業務を想定した課題：院内で行えるものを検討 ADL・認知の向上 <ul style="list-style-type: none"> 職場内で口頭管理できるための準備 ＝どのような補助行動や環境の支援があれば自立できるか <p><例>移動・ルート表 服薬管理・カレンダー等→1Wセット スタッフへの指導・スケジュール表→メモリーボードの活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 外出訓練 <ul style="list-style-type: none"> 復職先を想定した外出訓練 	<ol style="list-style-type: none"> 経済面の確認 <ul style="list-style-type: none"> 復職手当及び福祉の給付制度の確認・訓練 勤務障害者保険給付手帳の準備 復職後すぐに取付できるよう準備・調整 障害手帳の申請状況 職場状況の確認(業務内容・勤務地・受け入れ) <ul style="list-style-type: none"> 本人・家族：復職前の状況と復職後の職場とのやり取りの確認 職場：ご本人・ご家族の希望に基づき、実現しづらい、職場の受け入れ状況を確認する 関係先機関との情報提供 <ul style="list-style-type: none"> 地域障害者就業センター(DCC等)、障害者就業・生活支援センター、就労移行支援事業所、市区町村の障害支援センター、福祉支援事業所などの紹介 職場への連携アプローチ <ul style="list-style-type: none"> 復職時の支援体制や復職後のフォローが必要な事などを説明する。 	演習でポイントがずれていたり、発表内容が乏しい場合は、演習の進行役の方がこのスライドを使うか、主催者で準備するかしてポイントをご説明ください。
【本人へのアプローチ】	【職場側へのアプローチ】					
<ol style="list-style-type: none"> 今後の見通しの説明 <ul style="list-style-type: none"> 復職の可否、不安が強い場合、本人・家族へ相談関係・職場復帰・経費など、今後の見通しを説明する 口頭理解促進のためのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> 認知訓練等：仕事と結びつけ動機づけして実施 業務を想定した課題：院内で行えるものを検討 ADL・認知の向上 <ul style="list-style-type: none"> 職場内で口頭管理できるための準備 ＝どのような補助行動や環境の支援があれば自立できるか <p><例>移動・ルート表 服薬管理・カレンダー等→1Wセット スタッフへの指導・スケジュール表→メモリーボードの活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 外出訓練 <ul style="list-style-type: none"> 復職先を想定した外出訓練 	<ol style="list-style-type: none"> 経済面の確認 <ul style="list-style-type: none"> 復職手当及び福祉の給付制度の確認・訓練 勤務障害者保険給付手帳の準備 復職後すぐに取付できるよう準備・調整 障害手帳の申請状況 職場状況の確認(業務内容・勤務地・受け入れ) <ul style="list-style-type: none"> 本人・家族：復職前の状況と復職後の職場とのやり取りの確認 職場：ご本人・ご家族の希望に基づき、実現しづらい、職場の受け入れ状況を確認する 関係先機関との情報提供 <ul style="list-style-type: none"> 地域障害者就業センター(DCC等)、障害者就業・生活支援センター、就労移行支援事業所、市区町村の障害支援センター、福祉支援事業所などの紹介 職場への連携アプローチ <ul style="list-style-type: none"> 復職時の支援体制や復職後のフォローが必要な事などを説明する。 					
9		演習の進行役が発表内容に関して、ポイントとなる内容について簡単にコメントしてください。				

<p>10</p>	<p>支援のポイント②「復職に向けた連携」(例)</p> <p>【医療機関の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 治療計画の制約 治療では、リハビリできる時間・期間に限界がある。 → 地域のリハビリ施設の活用が必要 2) MSWの抱える問題 人数の少く、業務も幅広い。加えて、MSWのメイン業務以外のこともやらざるを得ないことも多い。 3) 社会との連携 → 精神科医師やリハビリスタッフ、病棟外と一緒に行動・支援する機会が少ない。MSWは現場を知りたいために、本音に響けるかどうかのアセスメントが難しい。 <p>【就労支援機関の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域連帯型支援センター 各都道府県に1箇所しかないために、地域的に違い・特徴がある。 2) 障害者就業・生活支援センター 仕事の内容は多岐で、就職するはずだが、定員を確保できずにいる。復職支援のノウハウは少ない。 3) 就労移行支援事業所 実働経験豊富な者の割合は多くない。市町村によっては、復職目的の利用が認められない。就職者を出す事業所とそうでない事業所の格差が大きい。 4) 福祉支援事業所 介護介助では1人30~40ケースのところ、100ケースを抱えている担当者もいて、計画を作るだけで精一杯の状態。 <p>【情報共有で気をつけるポイント】</p> <p>「専門性があるから分かる場合」と「専門性ゆえ、あえてなくする・ひかすつけない場合」がある。医療従事者は難病例のアセスメントをすることが経験が少なく、福祉のアセスメントが十分にできないことがある。一方、就労支援機関は広域的な知識が不足しがちで、広域で使われている一般的な情報提供までにはなかなかならない。医療機関は、なるべく就労機関の立場に立って、情報提供を行い、就労支援機関は、医療従事者が現場を理解していないことを理解し、実働現場の具体的な事実を伝え、共有していくことが重要である。</p>	<p>演習でポイントがずれていたり、発表内容が乏しい場合は、演習の進行役の方がこのスライドを使うか、主催者で準備するかしてポイントをご説明ください。</p>
<p>13</p>		<p>演習の進行役が発表内容に関して、ポイントとなる内容について簡単にコメントしてください。</p>
<p>14</p>	<p>支援のポイント③「就労支援機関」(例)</p> <p>【本人へのアプローチ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 一日の行動成立までの支援方法とかかる時間の確認 「時間」をみる→「活動」目標→決まった席に座る→作業→記録→休憩→活動→目標→部屋へ戻る。 2) 自己理解の促進 → 以前の業務は問題なくできるとの認識 → 現状とのギャップは大きい。自己評価と他者評価の機会を行う 3) 補償や給付の確保 ・ メモとり ・ 報告・連絡・相談 4) 可能作業と作業予定にかかる時間の確認 「目標である工程」に注意できる点「物や道具の管理」 5) スケジュール管理・情報共有の方法の整理 職場・家族も高い情報共有できるメモリーノートの使用 <p>【職場へのアプローチ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 職場訪問 ・ 本人のアセスメントができた段階で職場訪問 ・ 復職までのプランの提示 ・ 復職時のイメージを共有 2) 職場の理解促進 「障害状況」取組「復職に向けた基本的な考え方(障害者雇用・復職のメリット・合理的配慮・障害者職場復帰支援助成金の活用など)」の情報提供(文書) 3) 業務内容の把握・調整 業務～現場まであらゆる業務の中で、実際に見学・体験をし、ある程度分業があり、繰り返し行える業務を調整。 4) 職場復帰の認定 了前業務の準備、道具の置換等の認定など 5) 指導担当者へのフォロー 障害特性の理解、指導方法の伝達(ジョブ・シート支援) 6) その他、困りごとへの相談 	<p>演習でポイントがずれていたり、発表内容が乏しい場合は、演習の進行役の方がこのスライドを使うか、主催者で準備するかしてポイントをご説明ください。</p>